

## 福島第一原子力発電所及び福島第二原子力発電所立入調査結果の概要

今回のデータ改ざんや重大なトラブルの隠ぺいの相次ぐ判明は、原子力発電所の安全確保に対する県民の信頼を大きく損ねるものであり、共生を図ってきた立地地域のイメージへの影響も懸念される。

過去の不正事案が、これまで解明されてこなかったことは、平成14年9月以降の企業倫理遵守の徹底や組織風土改革等の不正問題再発防止の対応において、「安全」を最優先し、過去の不正事案を積極的に解明し、発電所の安全性、信頼性向上を目指す取組みが、結果的に不十分であったことを示すものと言わざるを得ない。

今回の立入調査において、不正問題再発防止対策への継続した取組みが実施されているものの、信頼回復に向け、本店、各原子力発電所が一体となり、新たなスタートラインに立った気概で一層の充実強化に努める必要があることが認められた。

とりわけ、不正問題再発防止対策の推進、原子力発電所の安全管理に当たって、事業者の経営の意思として示されてきた「安全最優先の意識を徹底し、世界トップレベルの安全・安心な会社を目指す」という方針を実現していくために、どのように経営資源を投入し、どのような運営管理体制を構築していくのかを明確にし、その上で、今後の「安全最優先」の取組みは、従前と具体的に何が違うのかをはっきりと示し、立地地域をはじめ県民の目に見える形で、再発防止対策のアクションプランを展開していくことが求められている。

また、現場の作業に携わる一人ひとりに対しては、単なるルール遵守を求めるだけでなく、真に納得して取り組んでいく個々人の意識改革への環境整備と、様々な取組みの意義が次第に見失われ形骸化していくことのないよう、そのルールの本質的意義を絶えず捉え返し、理解の促進と深化が不断に行われる組織、運営体制の整備に努めていく必要がある。

事業者においては、「安全最優先」の原点に立ち返って、信頼回復に向け、真剣に取り組む、実績を一つ一つ積み重ねていくことが強く求められる。

### < 個別事項 >

#### 1 不適合管理の強化

同様のトラブルが繰り返されることのないよう、不適合事象の根本的な原因分析と迅速な他プラントへの「水平展開」ができる仕組みの強化を図ること。

特に、本店において、不適合事象について、迅速に対応し、他発電所への再発防止対策の指示が的確になされるよう一層の運用改善に努めること。

不適合事象の重要度分類、公表区分については、これまでの運用実績を踏まえ、わかりやすさにも十分配慮しながら見直し、情報公開の徹底を図っていくこと。

ヒューマンエラーの再発防止にソフト、ハード両面から努めていくこと。

## 2 協力企業とのコミュニケーションの強化

協力企業とのコミュニケーション強化について、実効的なものとなっているか、適切に評価し、不断に見直しを図っていくこと。

## 3 情報共有化の推進

原子力発電所の安全性、信頼性の向上を図るため、電力会社、メーカー間の有効な情報共有化と情報の活用が図られるシステムの構築を積極的に推進すること。

本店、各発電所が連携し、現場の実態を十分踏まえ、マニュアル、操作手順書等について、各発電所間の統一を図る等により、現場の情報や経験を共有しやすくするように努めること。

## 4 教育訓練、研修の充実

発電所員及び協力企業従業員が、ルール、マニュアル、手順書等の本質的意義を理解して現場の作業に携わることができるよう教育訓練、研修等の充実を図っていくこと。

## 5 現場の環境改善

不適合管理、品質保証活動、新たな検査制度への対応等による個人の業務量の増加等が、新たな問題の誘因とならないよう十分配慮しながら、発電所員及び協力企業従業員が確実に実践できる良好な環境づくりに本店、発電所が一体となって努めていくこと。

## 6 総点検結果を踏まえた安全管理の徹底

点検時の制御棒引き抜け再発防止のソフト、ハード両面に抜本的対策を講じるとともに、原子炉停止時の安全管理上の問題について改めて検討を深め、安全性、信頼性の向上に資する取組みをさらに積極的に進めていくこと。

不正の誘因を除き、現場が「安全最優先」に業務を進められるよう、これまでの不適合事例を踏まえ、適切な予備品管理等を行っていくこと。

## 7 発電所運営の透明性の確保

発電所運営の透明性確保については、「安全最優先」の経営指針を実現するため、人材、設備等の経営資源を現場にどのように投入し、結実させていくのかを明らかにしていくよう努めること。

取放水口海水温度差の設計値と実測値の差について、的確に説明責任を果たし、管理方針を確立していくこと。

原子力発電所施設等に関する申告制度については、改めてその周知に努めるとともに、申告情報等について、不正再発防止、安全管理の向上を図る観点から、迅速かつ適切に対応していくこと。